

V 情報ボランティア支援のポイント

(3) 「情報ボランティア」の活動を促進するコーディネーター

1. 様々な施設におけるコーディネーターの養成

現在、専属のボランティアコーディネーターがいる施設はほんの数えるほどである。栃木県生涯学習ボランティアセンターにおいては、嘱託のボランティア相談員が一名勤務しているが、各教育事務所のふれあい学習課の生涯学習ボランティアセンターにおいては、実質上、ボランティア担当職員がコーディネーターを兼務している。

現状においては、専属のコーディネーターを養成するのではなく、様々な立場のコーディネーターの養成が現実的である。市町村の行政職員、教職員、ボランティア活動者などそれぞれの立場でコーディネートについて理解実践していくことが望まれる。

例えば、前述の「県北ITボランティア」や「非営利団体 アイラボ」などは、自分たちで積極的に活動の場の開発に取り組み、行政関係者とも連絡を密に取りあっている。また、小中高校などにおいては、学校がボランティアの受け入れ施設であることはもとより、「情報ボランティア」に関しては、教職員・児童生徒自身が地域の教育力としてボランティア活動をすることが期待される。

これらの場合、ボランティア団体や学校にもコーディネーター的な人の存在が、「情報ボランティア」の活動を促進すると考える。

2. 日頃の情報収集と提供・相談活動の充実

コーディネーターは、地域における「情報ボランティア」に関する情報を日頃より収集し、そのネットワークを確保しておく必要がある。短期間で交代するのではなく、複数年同じ人がコーディネーターとして勤務し、紙やデータベースに頼らず、地域レベルで、顔がわかるコーディネートが望まれている。

【栃木県生涯学習ボランティアセンター】

